

【小学校高学年の部】優秀賞

私のじまんの日出町

日出町立川崎小学校 5年

こせ ひなの
古瀬 日向望

私の住んでいる日出町では、どこでも緑の草木や、様々な虫を見ることができます。耳をすませば、鳥の鳴き声もよく聞こえます。自然が豊かな町です。その中でも学校の周りや、家の周りが、私のじまんです。

私の通学路には、畑があります。毎朝登校するときや、学校帰りなど、通学路を通るたびに野菜のにおいがしてきます。時期によってにおいがちがうので、毎日季節を感じることができます。また、学校の授業では、三、四年生の時に理科で虫や植物を探す授業がありました。春にはテントウムシやタンポポ、夏にはさらさらとゆれる大きな木、秋には黄色にそまるイチヨウの葉、冬には冬眠するダンゴムシ。たくさんの生き物を見つけることができました。授業で見つけてから私は、毎年、それぞれの季節がやってくるのを楽しみにしています。

ふだん、何気なく見たり触ったりしているものも、よく観察してみると、おもしろい発見もありました。私は虫が苦手です。けれども、虫もこの地域に生きる自然の一つだと知って大切にするようになりました。もちろん植物にも色々な種類があっておもしろいなと思いました。

私が好きな植物は、タンポポです。家の周りや、学校の校庭にも生えています。タンポポは、白い綿毛ができると風に飛ばされて散らばってしまいます。でもそれが新しいタンポポの命なんだなと感じています。

タンポポのすごいところは他にもあります。たくましさもそうです。タンポポが地面にたおれてしまっても、枯れたわけではありません。花とじくを休ませて、種にたくさんの栄養をおくっているのです。これは、二年生の国語の教科書に出てきました。他にも、綿毛に風がよく当たり、種を遠くまで飛ばすことができるように、タンポポがぐんぐん伸びて背を高くしていることも書かれていました。私がこのお話を初めて聞いた時は、自分たちで考えて工夫しているところがすごいなと感じていたと思います。

思えば日出町も、私の好きなタンポポと同じようなところがあるように思います。世代から世代へと受けつがれる、歴史や住んでいる人たちのやさしさ。しっかりと地域に根付く、力強さやたのもしさ。そしてタンポポの綿毛のように、日出町のよさが、どんどん広がっていくと私はうれしいです。

私の将来の夢は、警察官です。警察官の役目は、そこに住む人々の安心、安全はもちろんですが、その地域、その町、県そのものを守ることだと思っています。防犯だけでなく、私は自然を守っていく活動も増やしたり、積極的に参加をしたりしてふるさとを守っていきたいです。

私が大人になった時、今よりもっと日出町がすてきな町になっていますように。